

対象校No.

注4

学校コード F123310112016

注3

設置年度 令和

6年度

計画の区分：大学の設置

注1

認可

注2

愛知医療学院大学 リハビリテーション学部 リハビリテーション学科

理学療法学専攻
作業療法学専攻

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人佑愛学園
令和7年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 事務局

職名・氏名

電話番号 052-409-3311

(夜間) 052-409-3311

e-mail

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和7年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

リハビリテーション学部

＜リハビリテーション学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	11
3. 施設・設備の整備状況、経費	21
4. 既設大学等の状況	22
5. 教員組織の状況	23
6. 附帯事項等に対する履行状況等	35
7. その他全般的事項	41

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人佑愛学園

(2) 大学名

愛知医療学院大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒452-0931
愛知県清須市一場519

(注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。

・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ニワ ジイチ) 丹羽 治一 (平成2年2月)		
学長	(ヨコオ カズヒサ) 横尾 和久 (令和6年4月)		
学部長	(カトウ マユミ) 加藤 真弓 (令和6年4月)		
学科長等		(マツダ フミヒロ) 松田 文浩 (令和7年4月)	学科の管理体制強化のため 令和7年4月1日 (7)

(注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。

(例) 令和6年度に報告済の内容 → (6)

令和7年度に報告する内容 → (7)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。
 ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合に、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
 ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 学士(一)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	80人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	320人	-	

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
 ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 (学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []				
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	-			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []		1.06倍	- 倍	
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	1.03	1.16						

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・転入学生は記入しないでください。
 ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設) IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	-	-	-	-	83	-	98	-	
	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (5)	[-] (-)	
2 年次			-	-	-	-	-	-	-	-	73	-	
			[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
							[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	83	-	171	-	
	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (-)	[-] (5)	[-] (-)	

- (注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	78 人	5 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	5 人	0 人	他の教育機関への入学・転学(3人)、学力不足(1人)、その他(1人)
令和7年度	171 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合計		5 人		5 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例) ・ 就学意欲の低下 ・ 学力不足 ・ 他の教育機関への入学・転学 ・ 海外留学
 ・ 就職 ・ 学生個人の心身に関する事情 ・ 家庭の事情 ・ 除籍 ・ その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{5}{83} = \boxed{6.02} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{171} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。
 - ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合に、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
 - ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 - ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻 学士(理学療法)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	45人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	180人		

- (注) 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様記入してください。
 - ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	45 () []	人 () []	45 () []	人 () []				
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	146 []	() []	175 []	() []	-			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	143 []	() []	173 []	() []		1.18倍		倍
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	118 []	() []	123 []	() []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	50 []	() []	61 []	() []				
入学定員超過率 B/A	-	-	-	-	-	-	-	-	1.11	-	1.35	-				

- (注) 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 - ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・転入学生は記入しないでください。
 - ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 - ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 - ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	50 [-] (-)	- [-] (-)	64 [-] (3)	- [-] (-)	
2年次			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	43 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4年次							- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	50 [-] (-)	- [-] (-)	107 [-] (3)	- [-] (-)	

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	46 人	4 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	4 人	- 人	他の教育機関への入学・転学(2人)、学力不足(1人)、その他(1人)
令和7年度	107 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合計		4 人		4 人	0 人	

- (注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 - 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 - 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{4}{50} = \boxed{8} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{107} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、別ファイルにて提出してください。
 ・様式は、令和3年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和7年度までの5年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が6年を越え、様式に変更が必要な場合に、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別途ご連絡ください。
 ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「留学」の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生を記載してください。
 ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻 学士(作業療法学)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4 年	35 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	140 人		

- (注)・定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の2))」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
 ・学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
 (学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	35 () []	人 () []	35 () []				
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	100 []	() []	76 []	-			
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	99 []	() []	75 []		0.91倍	倍	
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	92 []	() []	67 []				
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	33 []	() []	32 []				
入学定員超過率 B/A	-		-							0.94		0.91				

- (注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 ・()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなど、その旨を「備考」に付記してください。
 該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・転入学生は記入しないでください。
 ・[]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。
 春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 ・「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択するとともに、下欄に、入学時期と入学定員の内訳(予定を含む)を記載してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「-」を選択。)
 ・「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び別第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 ・「(5) - ② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	-	-	-	-	-	-	-	-	33	-	34	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	
2 年次			-	-	-	-	-	-	-	-	30	-	
			[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
			(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
3 年次					-	-	-	-	-	-	-	-	
					[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
					(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
4 年次							-	-	-	-	-	-	
							[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
							(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	
計	-	-	-	-	-	-	-	-	33	-	64	-	
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)	(-)	

- (注)・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、**内数**で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和2年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	人	人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	人	人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	32 人	1 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	1 人	- 人	他の教育機関への入学・転学(1人)
令和7年度	64 人	0 人	令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
			令和7年度	0 人	0 人	
合計		1 人		1 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。
 ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生、転科生も含めて記入してください。
 ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例) ・ 就学意欲の低下 ・ 学力不足 ・ 他の教育機関への入学・転学 ・ 海外留学
 ・ 就職 ・ 学生個人の心身に関する事情 ・ 家庭の事情 ・ 除籍 ・ その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(a+b)}} = \frac{-}{\#VALUE!} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(a+b)}} = \frac{1}{33} = \boxed{3.03} \%$$

【令和7年度】

$$\frac{\text{令和7年度の退学者数(a)}}{\text{令和7年度の在学者数(a+b)}} = \frac{0}{64} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<リハビリテーション学部 リハビリテーション学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養基礎科目	科学的思考の 生命の科学 エネルギーのしくみ 情報科学 基礎統計学 医療英文講読	1前	2								1	
		1前	2								1	
		1前	2			1						
		2後	2			1						
		3前	1			1						
	人間と生活	心理学基礎 人間関係論 倫理学 教育学 教育心理学 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 健康科学 レクリエーション	1前	1					1			
			1前	1								1
			1後	2								1
			2前	2								1
			1後	2								1
			1前	1			1					
			1後	1			1					
			2前	2			1					
	社会の理解	生物と環境 現代社会の理解 国際協力論 経営学 法学入門 社会福祉学	1後	1								1
			1前	1								1
			2前	1					1			
			2前	1								1
			1後	1								1
	教養合	スタートアップセミナー 医療職教養演習	1前	1			2	5	6	6		
			1前	1			2	1				
	小計(23科目)	-	15	16	0	4	5	6	6	0	11	
専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	1前	2								1	
		1後	1								1	
		1通	1				1				1	
		1前	2			1						
		1後	2			1						
		2前	2			1						
		1後	1					1				
		2前	2			1						
		2後	1					1				
		2後	1					2	2			
		1後	1			1						
		小計(11科目)	-	15	0	0	2	1	4	3	0	2
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学 公衆衛生学 臨床心理学 内科学 整形外科学 神経症候学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 医療安全学 臨床検査・画像診断学 総合リハビリテーション学	1後	1								1
			2後	1			1					
			2前	1								1
			2前	2			1					
			2前	2			1					
			2前	2			1					
			2前	1								1
			2前	1			1					
1後			1			1						
	小計(12科目)	-	15	0	0	4	2		1	0	3	
障がい者スポーツ概論	リハビリテーション概論 多職種連携 障がい者スポーツ概論	1前	2			1						
		3後	1			1			1			
		2前	1								1	
	小計(3科目)	-	4	0	0	1	1		1	0	1	

【令和7年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養基礎科目	科学的思考の 生命の科学 エネルギーのしくみ 情報科学 基礎統計学 医療英文講読	1前	2								1	
		1前	2								1	
		1前	2			1						
		2後	2			1						
		3前	1			1						
	人間と生活	心理学基礎 人間関係論 倫理学 教育学 教育心理学 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 健康科学 レクリエーション	1前	1						1		
			1前	1								1
			1後	2								1
			2前	2								1
			1後	2								1
			1前	1			1					
			1後	1			1					
			2前	2			1					
	社会の理解	生物と環境 現代社会の理解 国際協力論 経営学 法学入門 社会福祉学	1後	1								1
			1前	1								1
			2前	1						1		
			2前	1								1
			1後	1								3
	教養合	スタートアップセミナー 医療職教養演習	1前	1			2	5	6	6		
			1前	1			2	1				
	小計(23科目)	-	15	16	0	4	5	6	6	0	12	
専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	1前	2								1	
		1後	1								1	
		1通	1				1				1	
		1前	2			1						
		1後	2			1						
		2前	2			1						
		1後	1					1				
		2前	2			1						
		2後	1					1				
		2後	1					2	2			
		1後	1			1						
		小計(11科目)	-	15	0	0	2	1	4	3	0	2
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学 公衆衛生学 臨床心理学 内科学 整形外科学 神経症候学 精神医学 小児科学 リハビリテーション医学 医療安全学 臨床検査・画像診断学 総合リハビリテーション学	1後	1								1
			2後	1			1					
			2前	1								1
			2前	2			1					
			2前	2			1					
			2前	2			1					
			2前	1								1
			2前	1			1					
1後			1			1						
	小計(12科目)	-	15	0	0	4	2		1	0	3	
障がい者スポーツ概論	リハビリテーション概論 多職種連携 障がい者スポーツ概論	1前	2			1						
		3後	1			1			1			
		2前	1							1		
	小計(3科目)	-	4	0	0	1	1		1	0	1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	1後	2			1				
		理学療法研究法Ⅰ	2通	1				1			
		理学療法研究法Ⅱ	3通	1		1	3	4	3		
		人体触察法実習	1後	1				2	1		
		臨床運動学実習	3前	1				1	1		
		運動療法総論	2後	1			1				
		運動療法演習	3後	1			1		1		
		小計(7科目)	—	8	0	0	1	3	4	4	0
	理学療法管理学	理学療法管理学	3後	1			1				
		理学療法管理学演習	4後	1			1				
		小計(2科目)	—	2	0	0	1	0	0	0	0
	理学療法評価学	検査測定法	2前	2				1	2		
		検査測定法実習	2後	1				1	2		
		理学療法評価法	3前	2			1	1			
		理学療法評価法実習	3後	2				2	1		
		小計(4科目)	—	7	0	0	0	1	3	3	0
理学療法治療学	神経筋障害理学療法治療学	2後	2				1				
	神経筋障害理学療法治療学実習	3前	1				2				
	運動器系障害理学療法治療学	2後	2			1		1			
	運動器系障害理学療法治療学実習	3前	1			1		1			
	内部疾患系障害理学療法治療学	3前	2				1				
	内部疾患系障害理学療法治療学実習	3後	1				2				
	小児疾患系障害理学療法治療学	3前	1							1	
	小児疾患系障害理学療法治療学実習	3後	1							2	
	老年期障害理学療法学	2後	1			1					
	日常生活活動学	3前	2				1				
	日常生活活動学実習	3後	1				1	1			
	義肢装具学	3前	2				1				
	義肢装具学実習	3後	1				1	1			
	物理療法学	3前	2				1				
	物理療法学実習	3後	1				1				
	臨床理学療法総合演習	3後	1			1	3	4	4		
小計(16科目)	—	22	0	0	1	3	4	4	0	2	
地域理学療法学	生活環境論	3前	1				1				
	予防理学療法学	2前	1			1					
	予防理学療法学実習	2通	1			1		2			
	地域理学療法学	3前	2			1					
	小計(4科目)	—	5	0	0	1	2	1	2	0	0
総合理学療法学	臨床実習Ⅰ(見学)	1通	1			1	2	4	4		
	臨床実習Ⅱ(地域)	4通	1			1	3	4	4		
	臨床実習Ⅲ(評価)	3後	4			1	3	4	4		
	臨床実習Ⅳ(総合1)	4通	7			1	3	4	4		
	臨床実習Ⅴ(総合2)	4通	7			1	3	4	4		
	臨床セミナー	1通	1				2	1			
	卒業研究	4通	2			1	3	4	2		
	総合演習	4通	2			2	3	4	4		
小計(8科目)	—	25	0	0	2	3	4	4	0	0	
基礎作業療法学	作業療法概論	1後	2			1					
	臨床運動学	2後	1				1				
	基礎作業学	1後	1			1					
	基礎作業学実習	1後	2				1	1			
	小計(4科目)	—	6	0	0	1	2	0	1	0	0
作業療法管理学	作業療法管理学	3後	1			1					
	作業療法管理学演習	4後	1			1					
	小計(2科目)	—	2	0	0	1	0	0	0	0	0
作業療法評価学	作業療法評価法	2前	1				1				
	作業療法評価法実習Ⅰ	2前	1			1	1				
	作業療法評価法実習Ⅱ	3前	1			1		1			
	身体障害作業評価学	3前	1				1				
	精神障害作業評価学	2後	1			1	1		1		
	発達障害作業評価学	3前	1			1					
	小計(6科目)	—	6	0	0	2	2	2	1	0	0

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論	1後	2			1				
		理学療法研究法Ⅰ	2通	1				1			
		理学療法研究法Ⅱ	3通	1		1	3	4	3		
		人体触察法実習	1後	1				2	1		
		臨床運動学実習	3前	1				1	1		
		運動療法総論	2後	1			1				
		運動療法演習	3後	1			1		1		
		小計(7科目)	—	8	0	0	1	3	4	4	0
	理学療法管理学	理学療法管理学	3後	1			1				
		理学療法管理学演習	4後	1			1				
		小計(2科目)	—	2	0	0	1	0	0	0	0
	理学療法評価学	検査測定法	2前	2					1	2	
		検査測定法実習	2後	1					1	2	
		理学療法評価法	3前	2				1	1		
		理学療法評価法実習	3後	2					2	1	
		小計(4科目)	—	7	0	0	0	1	3	3	0
理学療法治療学	神経筋障害理学療法治療学	2後	2				1				
	神経筋障害理学療法治療学実習	3前	1				2				
	運動器系障害理学療法治療学	2後	2			1		1			
	運動器系障害理学療法治療学実習	3前	1			1		1			
	内部疾患系障害理学療法治療学	3前	2					1			
	内部疾患系障害理学療法治療学実習	3後	1					2			
	小児疾患系障害理学療法治療学	3前	1							1	
	小児疾患系障害理学療法治療学実習	3後	1							2	
	老年期障害理学療法学	2後	1			1					
	日常生活活動学	3前	2				1				
	日常生活活動学実習	3後	1				1	1			
	義肢装具学	3前	2				1				
	義肢装具学実習	3後	1				1	1			
	物理療法学	3前	2					1			
	物理療法学実習	3後	1					1			
	臨床理学療法総合演習	3後	1			1	3	4	4		
小計(16科目)	—	22	0	0	1	3	4	4	0	2	
地域理学療法学	生活環境論	3前	1					1			
	予防理学療法学	2前	1				1				
	予防理学療法学実習	2通	1				1		2		
	地域理学療法学	3前	2				1				
	小計(4科目)	—	5	0	0	1	2	1	2	0	0
総合理学療法学	臨床実習Ⅰ(見学)	1通	1			1	2	4	4		
	臨床実習Ⅱ(地域)	4通	1			1	3	4	4		
	臨床実習Ⅲ(評価)	3後	4			1	3	4	4		
	臨床実習Ⅳ(総合1)	4通	7			1	3	4	4		
	臨床実習Ⅴ(総合2)	4通	7			1	3	4	4		
	臨床セミナー	1通	1				2	1			
	卒業研究	4通	2			1	3	4	2		
	総合演習	4通	2			2	3	4	4		
小計(8科目)	—	25	0	0	2	3	4	4	0	0	
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	2			1					
	臨床運動学	2後	1				1				
	基礎作業学	1前	1			1					
	基礎作業学実習	1後	2				1	1			
	小計(4科目)	—	6	0	0	1	2	0	1	0	0
作業療法管理学	作業療法管理学	3後	1			1					
	作業療法管理学演習	4後	1			1					
	小計(2科目)	—	2	0	0	1	0	0	0	0	0
作業療法評価学	作業療法評価法	2前	1					1			
	作業療法評価法実習Ⅰ	2前	1				1	1			
	作業療法評価法実習Ⅱ	3前	1				1		1		
	身体障害作業評価学	3前	1					1			
	精神障害作業評価学	2後	1			1	1		1		
	発達障害作業評価学	3前	1			1					
	小計(6科目)	—	6	0	0	2	2	2	1	0	0

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	作業療法研究法 作業治療学理論 身体障害作業治療学Ⅰ 身体障害作業治療学Ⅱ 身体障害作業治療学実習 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 発達障害作業治療学 発達障害作業治療学実習 高齢期作業療法学 日常生活作業学Ⅰ 日常生活作業学Ⅱ 日常生活作業学実習 高次脳機能障害作業治療学 義肢装具学 義肢装具学実習 臨床作業療法演習	3前	2			1	3	2	2			
		2後	1			1						
		2後	2				1					
		3前	2				1					
		3前	1						1			
		3前	2				1	1		1		
		3前	1						1			
		3前	1						1			
		3後	2				1					
		3後	1				1					
		3前	2						1			
		1後	1				1			1		
		2後	1				1		1			
		2後	1						1			
	3前	1				1						
	3前	1					1					
	3後	1					1					
3後	1						2	2				
3後	1					3	2	2				
小計(17科目)	—	23	0	0	3	3	2	2	0	0		
地域作業療法学	リハビリテーション関連機器	3後	1				1					
	地域作業療法学	2後	1				1					
	地域作業療法学実習	3前	1					1				
	就労支援学	4前	1			1	1					
	小計(4科目)	—	4	0	0	1	2	1	0	0	0	
総合作業療法学	臨床実習Ⅰ(見学)	1通	2			2	3	2	2			
	臨床実習Ⅱ(地域)	2前	1			2	3	2	2			
	臨床実習Ⅲ(評価)	3後	4			2	3	2	2			
	臨床実習Ⅳ(総合1)	4通	8			2	3	2	2			
	臨床実習Ⅴ(総合2)	4通	8			2	3	2	2			
	臨床セミナー	1通	1					2	1			
	卒業研究	4通	2			3	3	2	2			
	総合演習	4通	2			4	4	2	2			
小計(8科目)	—	28	0	0	4	4	2	2	0	0		
専門発展科目	臨床演習	臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)	4後	1				2	2	1		
		臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害)	4後		1			1	1	1		
		臨床力アップ演習Ⅲ(運動器系障害)	4後		1			1		1		
		臨床力アップ演習Ⅳ(内部障害)	4後		1					2		
		臨床力アップ演習Ⅴ(精神障害)	4後		1			1		1		
		臨床力アップ演習Ⅵ(発達支援)	4後		1		1					
		臨床力アップ演習Ⅶ(スポーツ支援)	4後		1			2		1		
小計(7科目)	—	1	6	0	1	5	5	5	0	0		
合計(97科目)	—	188	22	0	10	6	6	6	0	17		
卒業要件及び履修方法												
<p>教養基礎科目の必修科目15単位と選択科目から6単位以上、「科学的思考の基盤」区分から2単位以上、「人間と生活」区分から2単位以上、「社会の理解」区分から2単位以上を修得する。専門支持科目の必修科目34単位、専門基幹科目の必修科目69単位、専門発展科目の必修科目1単位と選択科目から1単位以上修得し、卒業要件の126単位以上修得すること。(履修科目の登録上限:48単位(年間))</p>												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	作業療法研究法 作業治療学理論 身体障害作業治療学Ⅰ 身体障害作業治療学Ⅱ 身体障害作業治療学実習 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 発達障害作業治療学 発達障害作業治療学実習 高齢期作業療法学 日常生活作業学Ⅰ 日常生活作業学Ⅱ 日常生活作業学実習 高次脳機能障害作業治療学 義肢装具学 義肢装具学実習 臨床作業療法演習	3前	2			1	3	2	2			
		2後	1			1						
		2後	2				1					
		3前	2				1					
		3前	1						1			
		3前	2				1	1		1		
		3前	1						1			
		3前	1						1			
		3後	2				1					
		3後	1				1					
		3前	2						1			
		1前	1				1			1		
		2後	1				1		1			
		2後	1						1			
	3前	1						1				
	3前	1					1					
	3後	1					1					
3後	1						3	2	2			
3後	1						3	2	2			
小計(17科目)	—	23	0	0	3	3	2	2	0	0		
地域作業療法学	リハビリテーション関連機器	3後	1				1					
	地域作業療法学	2前	1				1					
	地域作業療法学実習	3前	1					1				
	就労支援学	4前	1			1	1					
	小計(4科目)	—	4	0	0	1	2	1	0	0	0	
総合作業療法学	臨床実習Ⅰ(見学)	1通	2			2	3	2	2			
	臨床実習Ⅱ(地域)	2前	1			2	3	2	2			
	臨床実習Ⅲ(評価)	3後	4			2	3	2	2			
	臨床実習Ⅳ(総合1)	4通	8			2	3	2	2			
	臨床実習Ⅴ(総合2)	4通	8			2	3	2	2			
	臨床セミナー	1通	1						2	1		
	卒業研究	4通	2			3	3	2	2			
	総合演習	4通	2			4	4	2	2			
小計(8科目)	—	28	0	0	4	4	2	2	0	0		
専門発展科目	臨床演習	臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)	4後	1				2	2	1		
		臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害)	4後		1			1	1	1		
		臨床力アップ演習Ⅲ(運動器系障害)	4後		1			1		1		
		臨床力アップ演習Ⅳ(内部障害)	4後		1					2		
		臨床力アップ演習Ⅴ(精神障害)	4後		1			1		1		
		臨床力アップ演習Ⅵ(発達支援)	4後		1		1					
		臨床力アップ演習Ⅶ(スポーツ支援)	4後		1			2		1		
小計(7科目)	—	1	6	0	1	5	5	5	0	0		
合計(97科目)	—	188	22	0	10	6	6	6	0	19		
卒業要件及び履修方法												
<p>教養基礎科目の必修科目15単位と選択科目から6単位以上、「科学的思考の基盤」区分から2単位以上、「人間と生活」区分から2単位以上、「社会の理解」区分から2単位以上を修得する。専門支持科目の必修科目34単位、専門基幹科目の必修科目69単位、専門発展科目の必修科目1単位と選択科目から1単位以上修得し、卒業要件の126単位以上修得すること。(履修科目の登録上限:48単位(年間))</p>												

【令和6年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養基礎科目	科学的思考の基盤	生命の科学	1前	2								1	
		エネルギーのしくみ	1前	2								1	
		情報科学	1前	2		1							
		基礎統計学	2後	2		1							
	人間と生活	医療英文講読	3前	1		1							
		心理学基礎	1前	1					1				
		人間関係論	1前	1								1	
		倫理学	1後	2								1	
		教育学	2前	2								1	
		教育心理学	1後	2								1	
		英語Ⅰ	1前	1		1							
		英語Ⅱ	1後	1		1							
		英語Ⅲ	2前	2		1							
		健康科学	2後	1								2	
	社会の理解	レクリエーション	1前	1				1					
		生物と環境	1後	1								1	
		現代社会の理解	1前	1								1	
		国際協力論	2前	1						1			
		経営学	2前	1								1	
	教養複合	法学入門	1後	1								3	
		社会福祉学	1前	1								1	
	小計(23科目)	スタートアップセミナー	1前	1			2	5	6	6			
		医療職教養演習	1前	1				2	1				
小計(23科目)			-	15	16	0	4	5	6	6	0	13	
専門科目	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1前	2								1	
		解剖学Ⅱ	1後	1								1	
		解剖学実習	1通	1					1			1	
		生理学Ⅰ	1前	2		1							
		生理学Ⅱ	1後	2		1							
		生理学実習	2前	1		1							
		運動学総論	1後	1						1			
		運動学	2前	2			1						
		運動生理学	2後	1					1				
		運動学実習	2後	1					2	2			
		人間発達学	1後	1		1							
	小計(11科目)			-	15	0	0	2	1	4	3	0	2
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	1後	1			1						1
		公衆衛生学	2後	1									1
		臨床心理学	2前	1									1
		内科学	2前	2			1						
		整形外科	2前	2			1						
		神経症候学	2前	2			1						
		精神医学	2前	1									1
		小児科学	2前	1			1						
		リハビリテーション医学	1後	1			1						
		医療安全学	1後	1				2					
		臨床検査・画像診断学	2後	1				2					
総合リハビリテーション学	3後	1			1	2		1					
小計(12科目)			-	15	0	0	4	2		1	0	3	
多職種連携	リハビリテーション概論	1前	2			1							
	多職種連携	3後	1				1		1				
	障がい者スポーツ概論	2前	1									1	
小計(3科目)			-	4	0	0	1	1		1	0	1	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門科目	基礎 理学療 法学	理学療法概論	1後	2				1					
		理学療法研究法Ⅰ	2通	1				1					
		理学療法研究法Ⅱ	3通	1		1	3	4	3				
		人体触察法実習	1後	1				2	1				
		臨床運動学実習	3前	1				1	1				
		運動療法総論	2後	1				1					
		運動療法演習	3後	1				1		1			
		小計(7科目)	—	8	0	0	1	3	4	4	0	0	
	管理 理学 療法	理学療法管理学	3後	1			1						
		理学療法管理学演習	4後	1			1						
		小計(2科目)	—	2	0	0	1	0	0	0	0	0	
	理 学 療 法 評 価 学	検査測定法	2前	2				1	2				
		検査測定法実習	2後	1				1	2				
		理学療法評価法	3前	2			1	1					
		理学療法評価法実習	3後	2				2	1				
		小計(4科目)	—	7	0	0	0	1	3	3	0	0	
	理 学 療 法 治 療 学	神経筋障害理学療法治療学	2後	2				1					
		神経筋障害理学療法治療学実習	3前	1				2					
		運動器系障害理学療法治療学	2後	2				1		1			
		運動器系障害理学療法治療学実習	3前	1				1		1			
		内部疾患系障害理学療法治療学	3前	2				1					
		内部疾患系障害理学療法治療学実習	3後	1				2					
		小児疾患系障害理学療法治療学	3前	1								1	
		小児疾患系障害理学療法治療学実習	3後	1								2	
		老年期障害理学療法	2後	1		1							
		日常生活活動学	3前	2				1					
		日常生活活動学実習	3後	1				1		1			
		義肢装具学	3前	2				1					
		義肢装具学実習	3後	1				1		1			
		物理療法学	3前	2					1				
		物理療法学実習	3後	1					1				
		臨床理学療法総合演習	3後	1			1	3	4	4			
	小計(16科目)	—	22	0	0	1	3	4	4	0	2		
	地 域 理 学 療 法 学	生活環境論	3前	1				1					
		予防理学療法	2前	1				1					
		予防理学療法実習	2通	1				1		2			
		地域理学療法	3前	2			1						
		小計(4科目)	—	5	0	0	1	2	1	2	0	0	
	総 合 理 学 療 法 学	臨床実習Ⅰ(見学)	1通	1			1	2	4	4			
		臨床実習Ⅱ(地域)	4通	1			1	3	4	4			
		臨床実習Ⅲ(評価)	3後	4			1	3	4	4			
		臨床実習Ⅳ(総合1)	4通	7			1	3	4	4			
		臨床実習Ⅴ(総合2)	4通	7			1	3	4	4			
		臨床セミナー	1通	1					2	1			
		卒業研究	4通	2			1	3	4	2			
		総合演習	4通	2			2	3	4	4			
	小計(8科目)	—	25	0	0	2	3	4	4	0	0		
基 礎 作 業 療 法 学	作業療法概論	1前	2			1							
	臨床運動学	2後	1				1						
	基礎作業学	1前	1			1							
	基礎作業学実習	1後	2				1		1				
小計(4科目)	—	6	0	0	1	2	0	1	0	0			
管 理 学 法	作業療法管理学	3後	1			1							
	作業療法管理学演習	4後	1			1							
	小計(2科目)	—	2	0	0	1	0	0	0	0	0		
作 業 療 法 評 価 学	作業療法評価法	2前	1				1						
	作業療法評価法実習Ⅰ	2前	1				1	1					
	作業療法評価法実習Ⅱ	3前	1				1		1				
	身体障害作業評価学	3前	1					1					
	精神障害作業評価学	2後	1			1	1		1				
	発達障害作業評価学	3前	1				1						
	小計(6科目)	—	6	0	0	2	2	2	1	0	0		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門科目	作業療法研究法 作業治療学理論 身体障害作業治療学Ⅰ 身体障害作業治療学Ⅱ 身体障害作業治療学実習 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 発達障害作業治療学 発達障害作業治療学実習 高齢期作業療法 日常生活作業学Ⅰ 日常生活作業学Ⅱ 日常生活作業学実習 高次脳機能障害作業治療学 義肢装具学 義肢装具学実習 臨床作業療法演習	3前	2			1	3	2	2		
		2後	1			1					
		2後	2				1				
		3前	2				1				
		3前	1						1		
		3前	2			1	1		1		
		3前	1				1		1		
		3後	2			1					
		3後	1			1					
		3前	2					1			
		1後	1			1			1		
		2後	1			1		1			
		2後	1					1			
		3前	1			1					
		3前	1				1				
		3後	1				1				
		3後	1				3	2	2		
小計(17科目)	—	23	0	0	3	3	2	2	0	0	
地域作業療法学	リハビリテーション関連機器 地域作業療法学 地域作業療法学実習 就労支援学	3後	1				1				
		2後	1				1				
		3前	1					1			
		4前	1			1	1				
		小計(4科目)	—	4	0	0	1	2	1	0	0
総合作業療法学	臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習	1通	2			2	3	2	2		
		2前	1			2	3	2	2		
		3後	4			2	3	2	2		
		4通	8			2	3	2	2		
		4通	8			2	3	2	2		
		1通	1					2	1		
		4通	2			3	3	2	2		
		4通	2			4	4	2	2		
		小計(8科目)	—	28	0	0	4	4	2	2	0
専門発展科目	臨床演習 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別) 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害) 臨床力アップ演習Ⅲ(運動器系障害) 臨床力アップ演習Ⅳ(内部障害) 臨床力アップ演習Ⅴ(精神障害) 臨床力アップ演習Ⅵ(発達支援) 臨床力アップ演習Ⅶ(スポーツ支援)	4後	1				2	2	1		
		4後		1			1	1	1		
		4後		1			1		1		
		4後		1				2			
		4後		1			1		1		
		4後		1		1					
		4後		1			2		1		
		4後		1							
小計(7科目)	—	1	6	0	1	5	5	5	0	0	
合計(97科目)		—	188	22	0	10	6	6	6	0	19

卒業要件及び履修方法

教養基礎科目の必修科目15単位と選択科目から6単位以上(「科学的思考の基盤」区分から2単位以上、「人間と生活」区分から2単位以上、「社会の理解」区分から2単位以上)を修得する。専門支持科目の必修科目34単位、専門基幹科目の必修科目69単位、専門発展科目の必修科目1単位と選択科目から1単位以上修得し、卒業要件の126単位以上修得すること。(履修科目の登録上限:48単位(年間))

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨床実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。(例:記載順)【認可時又は届出時】→【令和7年度(新)】→【令和6年度(新)】→【令和5年度】→【令和4年度】→【令和7年度(旧)】→【令和6年度(旧)】

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・担当教員の変更により、「法学入門」の教員配置を「兼任1」から「兼任3」に変更。
- ・科目間連携の見直しによる教育効果を高めるため、「作業療法学概論」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・科目間連携の見直しによる教育効果を高めるため、「基礎作業学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。

【令和7年度】

- ・科目間連携の見直しによる教育効果を高めるため、「日常生活作業学Ⅰ」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・科目間連携の見直しによる教育効果を高めるため、「地域作業療法学」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。

- (注)・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
121 科目	17 科目	0 科目	138 科目	121 科目 []	17 科目 []	0 科目 []	138 科目 []	

- (注)・未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
 ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)・配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。
 なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注)・設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。
 なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注)・授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、
 学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{138} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積：1,939.27㎡ 借用期間：20年		
	校舎敷地	5,083.01㎡	0㎡	0㎡	5,083.01㎡			
	運動場用地	801.13㎡	0㎡	0㎡	801.13㎡			
	小 計	5,884.14㎡	0㎡	0㎡	5,884.14㎡			
	そ の 他	776.13㎡	0㎡	0㎡	776.13㎡			
	合 計	6,660.27㎡	0㎡	0㎡	6,660.27㎡			
(2) 校 舎		専 用 5,562.27㎡ (4,933.62 ㎡)	共 用 0㎡ (0 ㎡)	共用する他の 学校等の専用 0㎡ (0 ㎡)	計 5,562.27㎡ (4,933.62 ㎡)			
(3) 教 室 等	講 義 室 8室	演 習 室 5室	実験実習室 13室	情報処理学習施設 0室 (補助職員 0人)	語学学習施設 0室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称 リハビリテーション学部			室 数 15 44 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書：当初の予定より 多く整備を行ったため (6) (7) 学術雑誌：休刊・廃刊 及び契約見直しのため 数字の変動があり (6)
	リハビリテー ション学部	17,854 [855] 17,331 [580] 16,707 [849] (17,538 [855]) (17,015 [850]) (16,391 [849])	[13] 42 [12] 48 [13] ([13]) (42 [12]) (48 [13])	13 [13] 12 [12] 13 [13] (13 [13]) (12 [12]) (13 [13])	436 (436)	5322 (5,322)	71 (71)	
	計	17,854 [855] 17,331 [580] 16,707 [849] (17,538 [855]) (17,015 [850]) (16,391 [849])	[13] 42 [12] 48 [13] ([13]) (42 [12]) (48 [13])	13 [13] 12 [12] 13 [13] (13 [13]) (12 [12]) (13 [13])	436 (436)	5322 (5,322)	71 (71)	
(6) 図 書 館	面 積 260.62㎡		閲 覧 座 席 数 64		収 納 可 能 冊 数 13,000			
(7) 体 育 館	面 積 323㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 該 当 な し				大学全体 体育館は多目的教室と 共用	
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	1,000千円	1,000千円	500千円
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	34,045千円	17,851千円	0千円	
	学生1人当 り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,670千円	1,420千円	1,420千円	1,420千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		資産運用収入、雑収入 等						

(注)・設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。

(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
- ・国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	愛知医療学院大学							収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備考
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度		
リハビリテーション学部	4	80	-	320	-	1.06	-	-	令和6	愛知県清須市一場519	
リハビリテーション学科	4	80	-	320	-	1.06	-	-	令和6	同上	
理学療法専攻	4	45	-	90	学士(理学療法)	1.18	-	-	令和6	同上	
作業療法専攻	4	35	-	70	学士(作業療法)	0.91	-	-	令和6	同上	
大学全体	4	80	-	320	-	1.06	-	-	-	-	

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「-」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度A Cの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和8年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。
 - ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。
- 詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<リハビリテーション学部 リハビリテーション学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和6年度】

【令和7年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	石井 文康 <令和6年4月> 博士(医学)	専	教授	石井 文康 <令和6年4月> 博士(医学)	専	教授	石井 文康 <令和6年4月> 博士(医学)
		神経症候学 作業療法管理学 作業療法管理学演習 作業療法研究法 日常生活作業学Ⅰ 日常生活作業学Ⅱ ※ 高次脳機能障害作業治療学 卒業研究 総合演習 ※			神経症候学 作業療法管理学 作業療法管理学演習 作業療法研究法 日常生活作業学Ⅰ 日常生活作業学Ⅱ ※ 高次脳機能障害作業治療学 卒業研究 総合演習 ※			神経症候学 作業療法管理学 作業療法管理学演習 作業療法研究法 日常生活作業学Ⅰ 日常生活作業学Ⅱ ※ 高次脳機能障害作業治療学 卒業研究 総合演習 ※
専	教授	岩井 和子 <令和6年4月> 社会福祉学博士	専	教授	岩井 和子 <令和6年4月> 社会福祉学博士	専	教授	岩井 和子 <令和6年4月> 社会福祉学博士
		スタートアップセミナー 作業療法概論 基礎作業学 精神障害作業評価学 作業治療学理論 精神障害作業治療学 就労支援学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※			スタートアップセミナー 作業療法概論 基礎作業学 精神障害作業評価学 作業治療学理論 精神障害作業治療学 就労支援学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※			スタートアップセミナー 作業療法概論 基礎作業学 精神障害作業評価学 作業治療学理論 精神障害作業治療学 就労支援学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※
専	教授	加賀谷 繁 <令和6年4月> 修士(人間文化)	専	教授	加賀谷 繁 <令和6年4月> 修士(人間文化)	専	教授	加賀谷 繁 <令和6年4月> 修士(人間文化)
		発達障害作業評価学 発達障害作業治療学 発達障害作業治療学実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅵ(発達支援)			発達障害作業評価学 発達障害作業治療学 発達障害作業治療学実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅵ(発達支援)			発達障害作業評価学 発達障害作業治療学 発達障害作業治療学実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅵ(発達支援)
専	教授	杉山 成司 <令和6年4月> 医学博士	専	教授	杉山 成司 <令和6年4月> 医学博士			
		人間発達学 内科学 小児科学 臨床検査・画像診断学 ※ 総合演習 ※			人間発達学 内科学 小児科学 臨床検査・画像診断学 ※ 総合演習 ※			
専	教授	田中 雅章 <令和6年4月> 博士(工学)	専	教授	田中 雅章 <令和6年4月> 博士(工学)	専	教授	田中 雅章 <令和6年4月> 博士(工学)
		情報科学			情報科学			情報科学
専	教授	種田 陽一 <令和6年4月> 博士(医学)	専	教授	種田 陽一 <令和6年4月> 博士(医学)			
		整形外科 リハビリテーション医学 医療安全学 ※ 臨床検査・画像診断学 ※ 総合演習 ※			整形外科 リハビリテーション医学 医療安全学 ※ 臨床検査・画像診断学 ※ 総合演習 ※			
専	教授	長谷川 昇 <令和8年4月> 医学博士	専	教授	長谷川 昇 <令和8年4月> 医学博士	専	教授	長谷川 昇 <令和8年4月> 医学博士
		生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習 総合リハビリテーション学 ※			生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習 総合リハビリテーション学 ※			生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習 総合リハビリテーション学 ※
専	教授(副学長)	山田 和政 <令和6年4月> 博士(医学)	専	教授(副学長)	山田 和政 <令和6年4月> 博士(医学)	専	教授(副学長)	山田 和政 <令和6年4月> 博士(医学)
		基礎統計学 スタートアップセミナー リハビリテーション概論 理学療法研究法Ⅱ 理学療法管理学 理学療法管理学演習 老年期障害理学療法学 臨床理学療法総合演習 地域理学療法学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※			基礎統計学 スタートアップセミナー リハビリテーション概論 理学療法研究法Ⅱ 理学療法管理学 理学療法管理学演習 老年期障害理学療法学 臨床理学療法総合演習 地域理学療法学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※			基礎統計学 スタートアップセミナー リハビリテーション概論 理学療法研究法Ⅱ 理学療法管理学 理学療法管理学演習 老年期障害理学療法学 臨床理学療法総合演習 地域理学療法学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山森 孝彦 <令和6年4月> 文学修士
		医療英文講読 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ
専	教授 (学長)	横尾 和久 <令和6年4月> 医学博士
		公衆衛生学 医療安全学 ※
専	准教授 (学部長)	加藤 真弓 <令和6年4月> 修士(心理学) ※
		スタートアップセミナー 多職種連携 理学療法概論 理学療法研究法Ⅱ 神経筋障害理学療法治療学実習 日常生活活動学 日常生活活動学実習 臨床理学療法総合演習 予防理学療法学実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習(PT) ※ 総合演習(OT) ※ 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害) ※ 臨床力アップ演習Ⅶ(スポーツ支援) ※
専	准教授	林 尊弘 <令和6年4月> 博士(社会福祉学)
		スタートアップセミナー 医療職教養演習 理学療法研究法Ⅱ 神経筋障害理学療法治療学実習 義肢装具学 義肢装具学実習 臨床理学療法総合演習 予防理学療法学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専	准教授	廣渡 洋史 <令和6年4月> 修士(保健科学) ※
		スタートアップセミナー 総合リハビリテーション学 ※ 作業療法研究法 身体障害作業治療学Ⅰ 義肢装具学 義肢装具学実習 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅲ(運動器系障害)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山森 孝彦 <令和6年4月> 文学修士
		医療英文講読 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ
専	教授 (学長)	横尾 和久 <令和6年4月> 医学博士
		公衆衛生学 医療安全学 ※
専	准教授 (学部長)	加藤 真弓 <令和6年4月> 修士(心理学) ※
		スタートアップセミナー 多職種連携 理学療法概論 理学療法研究法Ⅱ 神経筋障害理学療法治療学実習 日常生活活動学 日常生活活動学実習 臨床理学療法総合演習 予防理学療法学実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習(PT) ※ 総合演習(OT) ※ 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害) ※ 臨床力アップ演習Ⅶ(スポーツ支援) ※
専	准教授	林 尊弘 <令和6年4月> 博士(社会福祉学)
		スタートアップセミナー 医療職教養演習 理学療法研究法Ⅱ 神経筋障害理学療法治療学実習 義肢装具学 義肢装具学実習 臨床理学療法総合演習 予防理学療法学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専	准教授	廣渡 洋史 <令和6年4月> 修士(保健科学) ※
		スタートアップセミナー 総合リハビリテーション学 ※ 作業療法研究法 身体障害作業治療学Ⅰ 義肢装具学 義肢装具学実習 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅲ(運動器系障害)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	山森 孝彦 <令和6年4月> 文学修士
		医療英文講読 英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ
専	教授 (学長)	横尾 和久 <令和6年4月> 医学博士
		公衆衛生学 医療安全学 ※
専	教授	内藤 遼幸 <令和7年4月> 医学博士
		人間発達学 内科学 小児科学 臨床検査・画像診断学 ※ 総合演習 ※
専	教授	長谷川 命治 <令和7年4月> 医学博士
		整形外科学 リハビリテーション医学 医療安全学 ※ 臨床検査・画像診断学 ※ 総合演習 ※
専	准教授 (学部長)	加藤 真弓 <令和6年4月> 修士(心理学) ※
		スタートアップセミナー 多職種連携 障がい者スポーツ概論 理学療法概論 理学療法研究法Ⅱ 神経筋障害理学療法治療学実習 日常生活活動学 日常生活活動学実習 臨床理学療法総合演習 予防理学療法学実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習(PT) ※ 総合演習(OT) ※ 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害) ※ 臨床力アップ演習Ⅶ(スポーツ支援) ※
専	准教授	林 尊弘 <令和6年4月> 博士(社会福祉学)
		スタートアップセミナー 医療職教養演習 理学療法研究法Ⅱ 神経筋障害理学療法治療学実習 義肢装具学 義肢装具学実習 臨床理学療法総合演習 予防理学療法学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専	准教授	廣渡 洋史 <令和6年4月> 修士(保健科学) ※
		スタートアップセミナー 総合リハビリテーション学 ※ 作業療法研究法 身体障害作業治療学Ⅰ 義肢装具学 義肢装具学実習 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅲ(運動器系障害)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	准教授	松田 文浩 <令和7年4月> 博士(医学)	運動学 理学療法研究法Ⅱ 運動療法総論 運動療法演習 理学療法評価法 運動器系障害理学療法治療学 運動器系障害理学療法治療学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※
専任	准教授	横山 剛 <令和6年4月> 修士(人間文化)	スタートアップセミナー 医療職教養演習 総合リハビリテーション学※ 基礎作業学実習※ 作業療法評価法実習Ⅱ 精神障害作業評価学 作業療法研究法 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 臨床作業療法演習 就労支援学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅴ(精神障害)
専任	准教授	渡邊 豊明 <令和8年4月> 修士(学術)	スタートアップセミナー 臨床運動学 作業療法評価法実習Ⅰ 作業療法研究法 身体障害作業治療学Ⅱ 臨床作業療法演習 リハビリテーション関連機器 地域作業療法学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別) 臨床力アップ演習Ⅵ(スポーツ支援)※
専任	講師	臼井 晴信 <令和6年4月> 博士(リハビリテーション科学)	スタートアップセミナー 運動生理学 理学療法研究法Ⅱ 理学療法評価法 理学療法評価法実習※ 内部疾患系障害理学療法治療学 内部疾患系障害理学療法治療学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅳ(内部障害)
専任	講師	加藤 真夕美 <令和8年4月> 修士(学術)	レクリエーション スタートアップセミナー 身体障害作業評価学 作業療法研究法 高齢期作業療法学 日常生活作業学実習 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	准教授	松田 文浩 <令和7年4月> 博士(医学)	運動学 理学療法研究法Ⅱ 運動療法総論 運動療法演習 理学療法評価法 運動器系障害理学療法治療学 運動器系障害理学療法治療学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※
専任	准教授	横山 剛 <令和6年4月> 修士(人間文化)	スタートアップセミナー 医療職教養演習 総合リハビリテーション学※ 基礎作業学実習※ 作業療法評価法実習Ⅱ 精神障害作業評価学 作業療法研究法 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 臨床作業療法演習 就労支援学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅴ(精神障害)
専任	准教授	渡邊 豊明 <令和8年4月> 修士(学術)	スタートアップセミナー 臨床運動学 作業療法評価法実習Ⅰ 作業療法研究法 身体障害作業治療学Ⅱ 臨床作業療法演習 リハビリテーション関連機器 地域作業療法学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別) 臨床力アップ演習Ⅵ(スポーツ支援)※
専任	講師	臼井 晴信 <令和6年4月> 博士(リハビリテーション科学)	スタートアップセミナー 運動生理学 理学療法研究法Ⅱ 理学療法評価法 理学療法評価法実習※ 内部疾患系障害理学療法治療学 内部疾患系障害理学療法治療学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅳ(内部障害)
専任	講師	加藤 真夕美 <令和8年4月> 修士(学術)	レクリエーション スタートアップセミナー 身体障害作業評価学 作業療法研究法 高齢期作業療法学 日常生活作業学実習 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専任	准教授 (専任)	松田 文浩 <令和7年4月> 博士(医学)	運動学 理学療法研究法Ⅱ 運動療法総論 運動療法演習 理学療法評価法 運動器系障害理学療法治療学 運動器系障害理学療法治療学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※
専任	准教授	横山 剛 <令和6年4月> 修士(人間文化)	健康科学※ スタートアップセミナー 医療職教養演習 総合リハビリテーション学※ 基礎作業学実習※ 作業療法評価法実習Ⅱ 精神障害作業評価学 作業療法研究法 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 臨床作業療法演習 就労支援学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅴ(精神障害)
専任	准教授	渡邊 豊明 <令和8年4月> 修士(学術)	健康科学※ スタートアップセミナー 臨床運動学 作業療法評価法実習Ⅰ 作業療法研究法 身体障害作業治療学Ⅱ 臨床作業療法演習 リハビリテーション関連機器 地域作業療法学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別) 臨床力アップ演習Ⅵ(スポーツ支援)※
専任	講師	臼井 晴信 <令和6年4月> 博士(リハビリテーション科学)	スタートアップセミナー 運動生理学 理学療法研究法Ⅱ 理学療法評価法 理学療法評価法実習※ 内部疾患系障害理学療法治療学 内部疾患系障害理学療法治療学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅳ(内部障害)
専任	講師	加藤 真夕美 <令和8年4月> 修士(学術)	レクリエーション スタートアップセミナー 身体障害作業評価学 作業療法研究法 高齢期作業療法学 日常生活作業学実習 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習※ 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		木村 菜穂子 <令和8年4月> 修士(保健学)
		スタートアップセミナー 解剖学実習 理学療法研究法Ⅱ 人体触察法実習 検査測定法 検査測定法実習 臨床理学療法総合演習 生活環境論 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専 講師		清水 一輝 <令和8年4月> 修士(リハビリテーション科学)
		スタートアップセミナー 運動学実習 作業療法評価法 作業療法評価法実習Ⅰ 作業療法研究法 日常生活作業Ⅱ ※ 臨床作業療法演習 地域作業療法実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅳ(内部障害)
専 講師		松村 仁実 <令和8年4月> 修士(農学)
		スタートアップセミナー 医療職教養演習 理学療法研究法Ⅱ 人体触察法実習 臨床運動学実習 ※ 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専 講師		宮津 真寿美 <令和6年4月> 学士(教養)
		スタートアップセミナー 運動学実習 理学療法研究法Ⅰ 理学療法研究法Ⅱ 内部疾患系障害理学療法治療学実習 物理療法学 物理療法学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※
専 助教		齊藤 誠 <令和8年4月> 博士(リハビリテーション科学)
		スタートアップセミナー 運動学総論 理学療法研究法Ⅱ 理学療法評価法実習 ※ 運動器系障害理学療法治療学実習 運動器系障害理学療法治療学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅲ(運動器系障害)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		木村 菜穂子 <令和8年4月> 修士(保健学)
		スタートアップセミナー 解剖学実習 理学療法研究法Ⅱ 人体触察法実習 検査測定法 検査測定法実習 臨床理学療法総合演習 生活環境論 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専 講師		清水 一輝 <令和8年4月> 修士(リハビリテーション科学)
		スタートアップセミナー 運動学実習 作業療法評価法 作業療法評価法実習Ⅰ 作業療法研究法 日常生活作業Ⅱ ※ 臨床作業療法演習 地域作業療法実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅳ(内部障害)
専 講師		松村 仁実 <令和8年4月> 修士(農学)
		スタートアップセミナー 医療職教養演習 理学療法研究法Ⅱ 人体触察法実習 臨床運動学実習 ※ 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専 講師		宮津 真寿美 <令和6年4月> 学士(教養)
		スタートアップセミナー 運動学実習 理学療法研究法Ⅰ 理学療法研究法Ⅱ 内部疾患系障害理学療法治療学実習 物理療法学 物理療法学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※
専 助教		齊藤 誠 <令和8年4月> 博士(リハビリテーション科学)
		スタートアップセミナー 運動学総論 理学療法研究法Ⅱ 理学療法評価法実習 ※ 運動器系障害理学療法治療学実習 運動器系障害理学療法治療学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅲ(運動器系障害)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 講師		木村 菜穂子 <令和8年4月> 修士(保健学)
		スタートアップセミナー 解剖学実習 理学療法研究法Ⅱ 人体触察法実習 検査測定法 検査測定法実習 臨床理学療法総合演習 生活環境論 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専 講師		清水 一輝 <令和8年4月> 修士(リハビリテーション科学)
		スタートアップセミナー 運動学実習 作業療法評価法 作業療法評価法実習Ⅰ 作業療法研究法 日常生活作業Ⅱ ※ 臨床作業療法演習 地域作業療法実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅳ(内部障害)
専 講師		松村 仁実 <令和8年4月> 修士(農学)
		健康科学 ※ スタートアップセミナー 医療職教養演習 理学療法研究法Ⅱ 人体触察法実習 臨床運動学実習 ※ 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専 講師		宮津 真寿美 <令和6年4月> 学士(教養)
		健康科学 ※ スタートアップセミナー 運動学実習 理学療法研究法Ⅰ 理学療法研究法Ⅱ 内部疾患系障害理学療法治療学実習 物理療法学 物理療法学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※
専 助教		齊藤 誠 <令和8年4月> 博士(リハビリテーション科学)
		スタートアップセミナー 運動学総論 理学療法研究法Ⅱ 理学療法評価法実習 ※ 運動器系障害理学療法治療学実習 運動器系障害理学療法治療学実習 臨床理学療法総合演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅲ(運動器系障害)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
		外倉 由之 <令和8年4月> 修士(社会福祉)			外倉 由之 <令和8年4月> 修士(社会福祉)			外倉 由之 <令和8年4月> 修士(社会福祉)
専	助教	スタートアップセミナー 運動学実習 多職種連携 作業療法研究法 身体障害作業治療学実習 日常生活作業学Ⅰ 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)	専	助教	スタートアップセミナー 運動学実習 多職種連携 作業療法研究法 身体障害作業治療学実習 日常生活作業学Ⅰ 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)	専	助教	スタートアップセミナー 運動学実習 多職種連携 作業療法研究法 身体障害作業治療学実習 日常生活作業学Ⅰ 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 臨床セミナー 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅰ(病期別)
専	助教	濱田 光佑 <令和8年4月> 修士(人間科学)	専	助教	濱田 光佑 <令和8年4月> 修士(人間科学)	専	助教	濱田 光佑 <令和8年4月> 博士(人間科学)
		国際協力論 スタートアップセミナー 運動学実習 理学療法研究法Ⅱ 臨床運動学実習 日常生活活動学実習 臨床理学療法総合演習 ※ 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害) ※			国際協力論 スタートアップセミナー 運動学実習 理学療法研究法Ⅱ 臨床運動学実習 日常生活活動学実習 臨床理学療法総合演習 ※ 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害) ※			国際協力論 スタートアップセミナー 運動学実習 理学療法研究法Ⅱ 臨床運動学実習 日常生活活動学実習 臨床理学療法総合演習 ※ 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅱ(中枢神経系障害) ※
専	助教	藤本 大介 <令和8年4月> 修士(医科学)	専	助教	藤本 大介 <令和8年4月> 修士(医科学)	専	助教	藤本 大介 <令和8年4月> 修士(医科学)
		スタートアップセミナー 人体触察法実習 運動療法演習 検査測定法 臨床理学療法総合演習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅶ(スポーツ支援) ※			スタートアップセミナー 人体触察法実習 運動療法演習 検査測定法 臨床理学療法総合演習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅶ(スポーツ支援) ※			スタートアップセミナー 人体触察法実習 運動療法演習 検査測定法 臨床理学療法総合演習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅶ(スポーツ支援) ※
専	助教	松田 裕美 <令和8年4月> 修士(人間文化)	専	助教	松田 裕美 <令和8年4月> 修士(人間文化)	専	助教	松田 裕美 <令和8年4月> 修士(人間文化)
		心理学基礎 スタートアップセミナー 基礎作業実習 ※ 作業療法評価法実習Ⅱ 精神障害作業評価学 作業療法研究法 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅴ(精神障害)			心理学基礎 スタートアップセミナー 基礎作業実習 ※ 作業療法評価法実習Ⅱ 精神障害作業評価学 作業療法研究法 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅴ(精神障害)			心理学基礎 スタートアップセミナー 基礎作業実習 ※ 作業療法評価法実習Ⅱ 精神障害作業評価学 作業療法研究法 精神障害作業治療学 精神障害作業治療学実習 臨床作業療法演習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 卒業研究 総合演習 ※ 臨床力アップ演習Ⅴ(精神障害)
専	助教	山田 南欧美 <令和8年4月> 博士(工学)	専	助教	山田 南欧美 <令和7年4月> 博士(工学)	専	助教	山田 南欧美 <令和7年4月> 博士(工学)
		スタートアップセミナー 総合リハビリテーション学 ※ 理学療法研究法Ⅱ 検査測定法 検査測定法実習 職技装置学実習 臨床理学療法総合演習 ※ 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 総合演習 ※			スタートアップセミナー 総合リハビリテーション学 ※ 理学療法研究法Ⅱ 検査測定法 検査測定法実習 職技装置学実習 臨床理学療法総合演習 ※ 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 総合演習 ※			スタートアップセミナー 総合リハビリテーション学 ※ 理学療法研究法Ⅱ 検査測定法 検査測定法実習 職技装置学実習 臨床理学療法総合演習 ※ 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床実習Ⅲ(評価) 臨床実習Ⅳ(総合1) 臨床実習Ⅴ(総合2) 総合演習 ※
兼任	講師	長谷川 昇 <令和6年4月> 医学博士	兼任	講師	長谷川 昇 <令和6年4月> 医学博士	兼任	講師	長谷川 昇 <令和6年4月> 医学博士
		生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習			生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習			生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	渡邊 豊明 <令和6年4月> 修士(学術) スタートアップセミナー 臨床運動学 作業療法評価法実習Ⅰ 地域作業療法 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域)
兼任	講師	加藤 真夕美 <令和6年4月> 修士(学術) レクリエーション スタートアップセミナー 日常生活作業学実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床セミナー
兼任	講師	木村 菜穂子 <令和6年4月> 修士(保健学) スタートアップセミナー 解剖学実習 人体触察法実習 検査測定法 検査測定法実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床セミナー
兼任	講師	清水 一輝 <令和6年4月> 修士(リハビリテーション科学) スタートアップセミナー 運動学実習 作業療法評価法 作業療法評価法実習Ⅰ 日常生活作業学Ⅱ ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床セミナー
兼任	講師	松村 仁実 <令和6年4月> 修士(農学) スタートアップセミナー 医療職教養演習 人体触察法実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床セミナー
兼任	講師	齊藤 誠 <令和6年4月> 博士(リハビリテーション科学) スタートアップセミナー 運動学総論 運動器系障害理学療法治療学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床セミナー
兼任	講師	外倉 由之 <令和6年4月> 修士(社会福祉) スタートアップセミナー 運動学実習 日常生活作業学Ⅰ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床セミナー
兼任	講師	濱田 光佑 <令和6年4月> 修士(人間科学) 国際協力論 スタートアップセミナー 運動学実習 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学)
兼任	講師	藤本 大介 <令和6年4月> 修士(医科学) スタートアップセミナー 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学)
兼任	講師	松田 裕美 <令和6年4月> 修士(人間文化) 心理学基礎 スタートアップセミナー 基礎作業学実習 ※ 精神障害作業評価学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域)
兼任	講師	山田 南欧美 <令和6年4月> 博士(工学) スタートアップセミナー 検査測定法 検査測定法実習 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	渡邊 豊明 <令和6年4月> 修士(学術) スタートアップセミナー 臨床運動学 作業療法評価法実習Ⅰ 地域作業療法 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域)
兼任	講師	加藤 真夕美 <令和6年4月> 修士(学術) レクリエーション スタートアップセミナー 日常生活作業学実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床セミナー
兼任	講師	木村 菜穂子 <令和6年4月> 修士(保健学) スタートアップセミナー 解剖学実習 人体触察法実習 検査測定法 検査測定法実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床セミナー
兼任	講師	清水 一輝 <令和6年4月> 修士(リハビリテーション科学) スタートアップセミナー 運動学実習 作業療法評価法 作業療法評価法実習Ⅰ 日常生活作業学Ⅱ ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床セミナー
兼任	講師	松村 仁実 <令和6年4月> 修士(農学) スタートアップセミナー 医療職教養演習 人体触察法実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床セミナー
兼任	講師	齊藤 誠 <令和6年4月> 博士(リハビリテーション科学) スタートアップセミナー 運動学総論 運動器系障害理学療法治療学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床セミナー
兼任	講師	外倉 由之 <令和6年4月> 修士(社会福祉) スタートアップセミナー 運動学実習 日常生活作業学Ⅰ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床セミナー
兼任	講師	濱田 光佑 <令和6年4月> 修士(人間科学) 国際協力論 スタートアップセミナー 運動学実習 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学)
兼任	講師	藤本 大介 <令和6年4月> 修士(医科学) スタートアップセミナー 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学)
兼任	講師	松田 裕美 <令和6年4月> 修士(人間文化) 心理学基礎 スタートアップセミナー 基礎作業学実習 ※ 精神障害作業評価学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域)
兼任	講師	山田 南欧美 <令和6年4月> 博士(工学) スタートアップセミナー 検査測定法 検査測定法実習 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	渡邊 豊明 <令和6年4月> 修士(学術) 健康科学 ※ スタートアップセミナー 臨床運動学 作業療法評価法実習Ⅰ 地域作業療法 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域)
兼任	講師	加藤 真夕美 <令和6年4月> 修士(学術) レクリエーション スタートアップセミナー 日常生活作業学実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床セミナー
兼任	講師	木村 菜穂子 <令和6年4月> 修士(保健学) スタートアップセミナー 解剖学実習 人体触察法実習 検査測定法 検査測定法実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床セミナー
兼任	講師	清水 一輝 <令和6年4月> 修士(リハビリテーション科学) スタートアップセミナー 運動学実習 作業療法評価法 作業療法評価法実習Ⅰ 日常生活作業学Ⅱ ※ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床セミナー
兼任	講師	松村 仁実 <令和6年4月> 修士(農学) 健康科学 ※ スタートアップセミナー 医療職教養演習 人体触察法実習 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床セミナー
兼任	講師	齊藤 誠 <令和6年4月> 博士(リハビリテーション科学) スタートアップセミナー 運動学総論 運動器系障害理学療法治療学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床セミナー
兼任	講師	外倉 由之 <令和6年4月> 修士(社会福祉) スタートアップセミナー 運動学実習 日常生活作業学Ⅰ 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域) 臨床セミナー
兼任	講師	濱田 光佑 <令和6年4月> 修士(人間科学) 国際協力論 スタートアップセミナー 運動学実習 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学)
兼任	講師	藤本 大介 <令和6年4月> 修士(医科学) スタートアップセミナー 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学)
兼任	講師	松田 裕美 <令和6年4月> 修士(人間文化) 心理学基礎 スタートアップセミナー 基礎作業学実習 ※ 精神障害作業評価学 臨床実習Ⅰ(見学) 臨床実習Ⅱ(地域)
兼任	講師	山田 南欧美 <令和6年4月> 博士(工学) スタートアップセミナー 検査測定法 検査測定法実習 予防理学療法実習 ※ 臨床実習Ⅰ(見学)

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	安藤 信雄 <令和7年4月> 博士(経済学)
		経営学
兼任	講師	伊藤 正明 <令和6年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉学
兼任	講師	金子 幾之輔 <令和6年4月> 教育学修士
		人間関係論 臨床心理学
兼任	講師	川村 皓生 <令和8年4月> 修士(リハビリテーション療法学)
		小児疾患系障害看護学療法学実習※
兼任	講師	木村 良夫 <令和6年4月> 法学修士
		法学入門
兼任	講師	清島 大貴 <令和6年4月> 博士(医学)
		解剖学実習
兼任	講師	蔵本 紗知 <令和6年4月> 修士(社会学)
		現代社会の理解
兼任	講師	後藤 謙治 <令和6年4月> 法務博士(専門職)
		倫理学
兼任	講師	後藤 理夫 <令和6年4月> 教育学士
		エネルギーのしくみ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	安藤 信雄 <令和7年4月> 博士(経済学)
		経営学
兼任	講師	伊藤 正明 <令和6年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉学
兼任	講師	金子 幾之輔 <令和6年4月> 教育学修士
		人間関係論 臨床心理学
兼任	講師	川村 皓生 <令和8年4月> 修士(リハビリテーション療法学)
		小児疾患系障害看護学療法学実習※
兼任	講師	佐藤 菜穂子 <令和6年4月> 法務博士(専門職)
		法学入門※
兼任	講師	鈴木 大貴 <令和6年4月> 法務博士(専門職)
		法学入門※
兼任	講師	田中 伸明 <令和6年4月> 法学士
		法学入門※
兼任	講師	清島 大貴 <令和6年4月> 博士(医学)
		解剖学実習
兼任	講師	蔵本 紗知 <令和6年4月> 修士(社会学)
		現代社会の理解
兼任	講師	後藤 謙治 <令和6年4月> 法務博士(専門職)
		倫理学
兼任	講師	後藤 理夫 <令和6年4月> 教育学士
		エネルギーのしくみ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	安藤 信雄 <令和7年4月> 博士(経済学)
		経営学
兼任	講師	伊藤 正明 <令和6年4月> 修士(社会福祉学)
		社会福祉学
兼任	講師	金子 幾之輔 <令和6年4月> 教育学修士
		人間関係論 臨床心理学
兼任	講師	川村 皓生 <令和8年4月> 修士(リハビリテーション療法学)
		小児疾患系障害看護学療法学実習※
兼任	講師	佐藤 菜穂子 <令和6年4月> 法務博士(専門職)
		法学入門※
兼任	講師	田中 伸明 <令和6年4月> 法学士
		法学入門※
兼任	講師	森澤 史郎 <令和7年4月> 法務博士(専門職)
		法学入門※
兼任	講師	清島 大貴 <令和6年4月> 博士(医学)
		解剖学実習
兼任	講師	蔵本 紗知 <令和6年4月> 修士(社会学)
		現代社会の理解
兼任	講師	後藤 謙治 <令和6年4月> 法務博士(専門職)
		倫理学
兼任	講師	古池 頼司 <令和7年4月> 工学学士
		エネルギーのしくみ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	下郷 和雄 ＜令和6年4月＞ 歯学博士	兼任	講師	下郷 和雄 ＜令和6年4月＞ 歯学博士	兼任	講師	下郷 和雄 ＜令和6年4月＞ 歯学博士
		病理学			病理学			病理学
兼任	講師	高橋 圭 ＜令和7年4月＞ 人間文化学修士	兼任	講師	高橋 圭 ＜令和7年4月＞ 人間文化学修士	兼任	講師	高橋 圭 ＜令和7年4月＞ 人間文化学修士
		健康科学 ※			健康科学 ※			健康科学 ※
兼任	講師	多田 智美 ＜令和8年4月＞ 修士(医療科学)	兼任	講師	多田 智美 ＜令和8年4月＞ 修士(医療科学)	兼任	講師	多田 智美 ＜令和8年4月＞ 修士(医療科学)
		小児疾患系障害理学療法治療学 小児疾患系障害理学療法治療学実習 ※			小児疾患系障害理学療法治療学 小児疾患系障害理学療法治療学実習 ※			小児疾患系障害理学療法治療学 小児疾患系障害理学療法治療学実習 ※
兼任	講師	鳥居 昭久 ＜令和7年4月＞ 修士(児童学)	兼任	講師	鳥居 昭久 ＜令和7年4月＞ 修士(児童学)	兼任	講師	鳥居 昭久 ＜令和7年4月＞ 修士(児童学)
		健康科学 ※ 障がい者スポーツ概論			健康科学 ※ 障がい者スポーツ概論			障がい者スポーツ概論
兼任	講師	中野 隆 ＜令和6年4月＞ 医学博士	兼任	講師	中野 隆 ＜令和6年4月＞ 医学博士	兼任	講師	中野 隆 ＜令和6年4月＞ 医学博士
		解剖学 I 解剖学 II			解剖学 I 解剖学 II			解剖学 I 解剖学 II
兼任	講師	古井 景 ＜令和7年4月＞ 博士(医学)	兼任	講師	古井 景 ＜令和7年4月＞ 博士(医学)	兼任	講師	古井 景 ＜令和7年4月＞ 博士(医学)
		精神医学			精神医学			精神医学
兼任	講師	森田 耕治 ＜令和6年4月＞ 英語学修士	兼任	講師	森田 耕治 ＜令和6年4月＞ 英語学修士	兼任	講師	森田 耕治 ＜令和6年4月＞ 英語学修士
		教育学 教育心理学			教育学 教育心理学			教育学 教育心理学
兼任	講師	森谷 和司 ＜令和6年4月＞ 理学学士	兼任	講師	森谷 和司 ＜令和6年4月＞ 理学学士	兼任	講師	森谷 和司 ＜令和6年4月＞ 理学学士
		生命の科学 生物と環境			生命の科学 生物と環境			生命の科学 生物と環境

(注)・報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- ・その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
- ・年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(研)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・不要な年度(令和6年度開設であれば令和5年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・兼任に笹尾菜穂子講師を追加。
- ・兼任に鈴木大資講師を追加。
- ・兼任に田中申明講師を追加。

【令和7年度】

- ・専任杉山成司教授が辞任、内藤通孝教授に変更。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・専任種田陽一教授が辞任、長谷川幸治教授に変更。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・兼任鈴木大資講師が辞任、森澤史郎講師に変更。
- ・兼任後藤理夫講師が辞任、古池親司講師に変更。
- ・兼任鳥居昭久講師から「健康科学」を削除。
- ・専任加藤真弓准教授に「障がい者スポーツ概論」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・専任横山剛准教授に「健康科学」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・専任渡邊豊明准教授に「健康科学」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・専任松村仁実講師に「健康科学」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・専任宮津真寿美講師に「健康科学」を追加。令和6年11月AC教員審査済み。
- ・専任山田南欧美助教の就任年度を令和7年4月に変更。

(注) 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**原則としてAC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和6年度開設であれば令和5年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注)・計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織(学科連係課程実施学科)の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二(短期大学設置基準第三条の二)に基づく「連係協力学部等(連係協力学科)」の専任教員数について、「(2)-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2)-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等(連係協力学科)ごとに別ファイルで作成してください。

(2)-① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要 専任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
	10
20	
名	名

(注)・大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2)-② 専任教員等数【大学・高专】

設置時の計画						現在(報告時)の状況					
教授	准教授	講師	助教	計(A)	助手(A')	教授	准教授	講師	助教	計(B)	助手(B')
10	6	6	6	28	0	9	5	2	1	17	0
(9)	(4)	(2)	(0)	(15)	(0)						
現在(報告時)の完成年度時の状況						現在(報告時)の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計(C)	助手(C')	教授	准教授	講師	助教	計(D)	助手(D')
10	6	6	6	28	0	10	6	6	6	28	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注)・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。

・「現在(報告時)の状況」には、報告年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。

・「現在(報告時)の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在(報告時)の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、

[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

・「現在(報告時)の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、

[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: △1)

(2)-③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢(歳)	報告時(上記 (B))の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時(上記 (C))の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
60	9	11
歳	名	名

(注)・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、

及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階まで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2)-④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{28}{28} = \boxed{100} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑤ 現在(報告時)の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{9}{17} = \boxed{52.94} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2)-⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
該当なし		◎◎ ◎◎	R5.10	必修	○○概論	①	R5.10……………のため就任辞退（5）			
				選択	◆◆基礎	②				
				必修	☆☆演習	③				
2	准教授	△△ △△	R6.12	自由	××語	②	R6.12……………のため就任辞退（6）			
				必修	▲▲実習	③				
				必修	◇◇特論	①				
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
 就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|--------------------------------|
| ・専任教員が担当する（している）場合は「①」 |
| ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 |
| ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	杉山 成司	R7.3	必修	人間発達学	①	R7.3.31付け一身上の都合のため辞任（7）			
				必修	内科学	①				
				必修	小児科学	①				
				必修	臨床検査・画像診断学	①				
2	教授	種田 陽一	R7.3	必修	総合演習	①	R7.3.31付け一身上の都合のため辞任（7）			
				必修	整形外科学	①				
				必修	リハビリテーション医学	①				
				必修	医療安全学	①				
				必修	臨床検査・画像診断学	①				
				必修	総合演習	①				
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
2	人	必修	10	科目	必修	10	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目

- (注)・一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|--------------------------------|
| ・専任教員が担当する（している）場合は「①」 |
| ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 |
| ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）						
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
2	人	必修	10	科目	必修	10	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	10	科目	計	10	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{2}{28} = 7.14 \%$$

- (注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和6年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

2 人

(注)・(3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
 ・令和7年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
2	准教授	△△ △△	必修	○○概論	①	R5. 3. 31付け65歳で定年退職 (5)	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
			自由	××語	②		
2	准教授	△△ △△	必修	▲▲実習	③	R6. 3. 31付け65歳で定年退職 (6)	
			必修	◇◇特論	①		
			自由				
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
○○	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注)・定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
 ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

辞任した教授の後任として、担当科目に影響がないよう職位及び全ての科目において令和6年11月のAC教員審査で可の判定を受けた教員を配置した。学生に対しては、シラバスで変更を周知するとともに、4月のガイダンスにおいて説明を行い、後任教員から自己紹介を行った。

(注)・上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入し

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和5年)</p>	<p>・設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p> <p>4年制大学にふさわしい教育と研究活動が発揮できるよう以下の対応を行っている。</p> <p>(1) 設置計画に基づく教育課程・教員を配置し、各授業を開始した。</p> <p>(2) 活動目標申告書の提出 教員を対象に、年度初めに活動目標申告書の提出を義務付けた。申告内容は以下の項目である。</p> <p>①教育活動 ②研究活動 ③大学運営 ④社会貢献 ⑤その他の活動</p> <p>以上の各項目に関する目標を具体的に設定し、意識啓発を図っている。</p> <p>活動目標申告書をもとに、学長・副学長・学部長による面談を行う。</p> <p>(3) 教育環境づくりの推進 ・社会人として必要な能力を有する人材を育成するため、学生の能動的な活動を取り入れた授業や学習法（アクティブラーニング）を多く行っている。</p> <p>(4) 教育研究活動の充実に向けた支援体制の構築 ・教育力向上と最新の医療技術・知識を教育に活かすことを目的に、教職員の兼業制度を設けた。半日を1単位として週に2単位まで本学の職以外の職を兼ねることを認めている。また、「教員の学外研究・研修に関する規程」を制定し、国内外での研究に関し、許可が得られれば、職務に専念する義務の免除を受けることを可能とした。</p> <p>(6)</p>	<p>履行中</p> <p>以下について実施する計画である。</p> <p>(1) 設置計画に基づく教員配置・教員組織について令和8年度までの3年間で段階的に整備する。</p> <p>(2) 活動実績報告書の提出 年度末に次年度に活かせるよう、活動目標申告書に記載した内容について自己評価を行うとともに、部局長等が適切に評価し、次年度に活かすことで、人材育成に繋げる。</p> <p>(3) 教育研究環境づくりの推進 6月に大学間連携先である大学病院の早期体験学習を行い、これから自分が進む世界を知り、到達目標を確認するとともに、目的意識をもって4年間の学習動機を高める。</p> <p>(4) 研究水準の向上 令和6年度に掲げた以下の取組を引き続き実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部をはじめリハビリテーション関連学部等における豊富な教育研究業績を有する教授等による教育研修を他の教員が吸収できる機会を設ける。 ・専任教員全員が科学研究費助成事業の申請ができるよう、必要な勉強会の開催や教員間の連携を行っていく。 ・大学間連携を締結している大学との共同研究を推進していく。 <p>(6)</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
		<p>開設時の計画事項について以下の通り実行した。</p> <p>(1)設置計画に基づく教育課程・教員の配置 計画した教育課程に基づき、各教員が授業を遂行した。教授2名から令和6年度末での辞任希望があったため、後任の教授2名について教員審査を受審し、適切な教員を配置した。</p> <p>(2)活動実績報告書の提出 専任教員は活動目標申告書に記載した内容について自己評価を行い、活動実績報告の提出を行った。部局長等が適切に評価し、本人との面談を通して、今後の活動に繋げる。</p> <p>(3)教育環境づくりの推進 大学間連携先の大学病院で早期体験学習を行い、学習の動機付けを行った。社会人として必要な能力を育成できるよう初年次教育に重点を置き、授業科目「スタートアップセミナー」「医療職教養演習」「臨床セミナー」の中で学生の成長に繋げるための取組（評価表導入、チームビルディング、提携先大学病院での早期体験学習）を行っている。また、キャリア形成の1つとして、1年次に外部講師によるマナー講座を開講した。</p> <p>(4)研究水準の向上 兼業制度、学外研究、研修制度を活用し、教員が教育研究活動の向上に向けて取り組んでいる。他大学での教育・研究の実績のある教授が講師を務めるFD&SD研修会を開催し、教員の能力向上に努めた。科研費獲得に向けた研修会も行い、多くの教員が科研費申請を行った。</p> <p>(7)</p>	<p>以下について実施する計画である。</p> <p>(1) 設置計画に基づく教員配置・教員組織について令和8年度までの2年間で段階的に整備する。</p> <p>(2) 活動実績報告書の提出 令和6年度の実施状況を振り返り、活動等の見直しを行い、教育研究活動の水準の向上を目指す。毎年度実行していく。</p> <p>(3) 教育研究環境づくりの推進 引き続き、大学間連携先である大学病院との連携を強化し、学生教育に活かせる取組を実行する。各委員会にて教育、研究内容を向上させるための取組を検討し、実行する。</p> <p>(4) 研究水準の向上 令和6年度に掲げた以下の計画について引き続き取組を推進していく。 ・外部資金（科学研究費助成事業他）の獲得に向けた必要な支援や教員間の連携を図る。 ・大学間連携を締結している大学との共同研究を推進する。</p> <p>(7)</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和5年)</p>	<p>・教育にふさわしい環境確保の観点から、アドミッション・ポリシーを踏まえた適切な入学選抜の実施に留意しつつ、設置計画における収容定員に見合った学生の確保に努めること。また、入学選抜等の状況に応じた収容定員の適切な規模について不断の検討を行うとともに、必要に応じて定員の見直しを図ること。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p> <p>適切な入学選抜と学生の確保に向けて以下の対応を行っている。</p> <p>(1) 学生募集状況 ・令和6年度第1期生の入学者は、83人(1.03倍)であり、その内訳は、理学療法学専攻入学定員45人に対し50人、作業療法学専攻入学定員35人に対し33人である。 ・優秀な学生を確保するため、計画どおり特別奨学生入試を行い、理学療法学専攻2名・作業療法学専攻1名を特別奨学生とした。</p> <p>(2) 作業療法学専攻の定員未充足の要因 ①令和5年9月4日に大学設置認可を受け、学校推薦型選抜(指定校)の依頼が当該日以降となり、学校推薦型選抜(指定校)に間に合わなかった高校が多かった。 ②他大学と併願している受験生が多く、作業療法学専攻受験者99人、合格者92人に対する歩留率は35.86%(理学療法学専攻42.37%)であった。 ③高校生等志願者の作業療法士に関する認知度が低いことや職業に関する理解が不足している。 ④本学の認知度が依然低いと考えられる(高校訪問をした際に、本学を知らないと回答する教員がいる)。</p> <p>(3) 以上を踏まえ、学生募集のさらなる充実に努めている。主な内容は以下のとおりである。 ①高大連携の締結 ・令和6年5月に高等学校1校と高大連携協定を締結した。協定項目は、高校生が大学における高度な教育・研究に触れる機会の充実、本学が求める学生像や大学の教育内容の情報提供、高校と大学とのそれぞれの教育に関する相互理解の促進等であり、学問や職業理解等に繋がると考えている。 ②学生募集担当職員の増員 ・本学の認知度を高めるために、高等学校教員(元校長)を令和6年4月に採用し、特に本学が位置する尾張地区を中心に学校訪問等の広報活動を強化している。</p> <p>(6)</p>	<p>履行中</p> <p>(1) 学生の確保 ・全学をあげた学生募集の実施 ①ブランディング戦略 本学の強み等を明確化し、ブランディングに落とし込む。全教職員の共通認識によりブランディングを推進、認知度向上に繋げる。 ②オープンキャンパスを活用した情報提供 職業に関すること、本学の特色等の必要な情報をしっかりと伝える。 ③積極的な情報発信 高校訪問、ホームページ、SNS等を活用し、本学の特色や強みが伝わるよう情報配信していく。 ④課外活動の推進 課外活動を通して、人間形成の役割を果たすものと考えており、自治会、各種クラブ、各種サークル等の健全な運営や活動が行われるよう金銭的、人的等必要な支援を行っている。</p> <p>(6)</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画																											
		<p>令和6年度に掲げた計画を実行した結果、令和7年度募集においては、学部全体では令和6年度を上回る入学者を確保することができた。</p> <p>(1) 学生募集状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度第2期生の入学者は、93人（1.16倍）であり、その内訳は、理学療法学専攻入学定員45人に対し61人、作業療法学専攻入学定員35人に対し32人である。 特別奨学生入試においては受験者が令和6年度を上回り、特に成績優秀者である理学療法学専攻4名・作業療法学専攻3名を特別奨学生とした。 <p>(2) 作業療法学専攻の定員未充足の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部全体でのオープンキャンパスでの来場者は令和6年度募集時より増加したが、作業療法学専攻希望者はほぼ同数であり、作業療法士の職業について理解されにくい。 作業療法学専攻の受験者数は前年度比1.23倍となったが、他大学との併願者が多く、本学入学へ結びつかなかった。 <p>(7)</p>	<p>以下について実施する計画である。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) オープンキャンパスの満足度向上 <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス参加者のアンケート結果を通して、毎回見直し、ブラッシュアップしていく。 (2) 高等学校教員対象の大学説明会開催 <ul style="list-style-type: none"> 本学で開催することにより、教育内容や特色、施設、入試に関する情報をはじめ、アクセスの良さを知ってもらう。 (3) 高等学校への出前講義による作業療法士の普及活動。 <ul style="list-style-type: none"> 積極的な出前講義の周知により、高等学校からの依頼を増やす。 <p>(7)</p>																											
<p>認 可 時 (令和5年)</p>	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>【認可】 遵守事項</p> <p>(1) 専任教員の年齢構成 下表は完成年度の年齢構成表であり、70歳を超える教員が5名、65～69歳が4名であり、教員組織編成の将来構想の実現に向けた取り組みを推進している。具体的には、完成年度に70歳を超える教授5名の後任人事について、専任教員からの昇任を検討していくため、各教員は必要な業績を積んでいる。現在、博士号を取得していない教員の内、3名が大学院に在籍している。</p> <p>(6) (7)</p>	<p>履行中</p> <p>(1) 完成年度に向けた人事計画 人事計画を早期に立案し、計画の実現に向けた取り組みを推進する。 ①授業科目の担当にふさわしい教育・研究業績を有する者を公募によって外部から採用する。 ②専任教員の昇格について検討する。</p> <p>(6) (7)</p> <p>(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="703 1406 1302 1592"> <thead> <tr> <th>学部・学科</th> <th>29歳以下</th> <th>30～39歳</th> <th>40～49歳</th> <th>50～59歳</th> <th>60～64歳</th> <th>65～69歳</th> <th>70歳以上</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション学部・リハビリテーション学科</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>割合 (%)</td> <td>0</td> <td>7.1</td> <td>25.0</td> <td>25.0</td> <td>10.7</td> <td>14.3</td> <td>17.9</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	学部・学科	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	リハビリテーション学部・リハビリテーション学科	0	2	7	7	3	4	5	28	割合 (%)	0	7.1	25.0	25.0	10.7	14.3	17.9	100.0
学部・学科	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計																						
リハビリテーション学部・リハビリテーション学科	0	2	7	7	3	4	5	28																						
割合 (%)	0	7.1	25.0	25.0	10.7	14.3	17.9	100.0																						

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和5年)</p>	<p>・理事長を始めとする学校法人を構成する一人一人が、四年制大学の設置に係る計画への共通理解を持ち、内部監査の実施も含め、ガバナンス機能の強化等、果たすべき役割を十分に認識した上で、適切に連携をしながら当該計画を履行すること。</p>	<p>【認可】 助言事項</p> <p>ガバナンス機能の強化と当該計画を履行するために、以下の対応を行っている。</p> <p>(1) 理事会・評議員会の適切な運営と情報共有 評議員会では、中期計画、年度計画等定められた項目について、評議員会に諮問した上で、理事会で決定している。監事は、学校法人の業務、財務状況、理事の業務執行状況を監査している。また、理事会・評議員会等で、設置計画の進捗等について説明し、共有している。</p> <p>(2) 常任理事会の開催 従来より毎月1回常任理事会を開催しており、今後も継続していく。設置計画の進捗等についても逐一説明し共有している。常任理事会の審議内容は、理事会で改めて承認を得ている。</p> <p>(3) 三様監査に向けて 令和5年度に内部監査委員会を設置した。当該委員会は内部の教職員と第三者が委員となり、法人業務全般の監査を行っている。現在、公認会計士と監事との連携にとどまっているが、令和6年度以降は三様監査を推進する計画である。</p> <p>(4) 愛知医療学院大学のガバナンス ・建学の精神に基づく教育理念を掲げ、ステークホルダーに対し育成する具体的な人材像を明確に示すために、3つのポリシー及び学修成果を定め、周知している。</p> <p>(5) 学長のリーダーシップ 学長は、法令に基づき校務をつかさどり、所属教職員の統督することを役割とし、教学運営の最高責任者として権限と責任をもって、大学運営に努めている。的確な判断をするため、学長の補佐体制として副学長の配置、教授会をはじめとする教員組織を整備した。</p> <p>(6) (7)</p>	<p>履行中</p> <p>(1) 三様監査の実施 ・令和6年度より三様監査を実施する。 ・積極的な情報公開に努める。</p> <p>(6) (7)</p>

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画																											
設置計画履行状況 調査結果 (令和6年度)	<p>・ 定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想を策定し、着実に実行すること。(リハビリテーション学部リハビリテーション学科)</p> <p>【A C】 指摘事項 (改善)</p>	<p>(1) 専任教員の年齢構成 下表は完成年度の年齢構成表であり、70歳を超える教員が5名、65～69歳が4名であり、教員組織編製の将来構想の実現に向けた取り組みを推進している。具体的には、完成年度に70歳を超える教授5名の後任人事について、専任教員からの昇任を検討していくため、各教員は必要な業績を積んでいる。令和6年度に助教1名が博士号を取得した。現在、博士号を取得していない教員の内、4名が大学院に在籍している。</p> <p>(7)</p>	<p>履行中</p> <p>(1) 完成年度に向けた人事計画 人事計画を早期に立案し、計画の実現に向けた取り組みを推進する。 ① 授業科目の担当にふさわしい教育・研究業績を有する者を公募によって外部から採用する。 ② 専任教員の昇格について検討する。</p> <p>(7)</p>																											
			(単位:人)																											
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部・学科</th> <th>29歳以下</th> <th>30～39歳</th> <th>40～49歳</th> <th>50～59歳</th> <th>60～64歳</th> <th>65～69歳</th> <th>70歳以上</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リハビリテーション学部・リハビリテーション学科</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>割合 (%)</td> <td>0</td> <td>7.1</td> <td>25.0</td> <td>25.0</td> <td>10.7</td> <td>14.3</td> <td>17.9</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>	学部・学科	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計	リハビリテーション学部・リハビリテーション学科	0	2	7	7	3	4	5	28	割合 (%)	0	7.1	25.0	25.0	10.7	14.3	17.9	100.00
学部・学科	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合計																						
リハビリテーション学部・リハビリテーション学科	0	2	7	7	3	4	5	28																						
割合 (%)	0	7.1	25.0	25.0	10.7	14.3	17.9	100.00																						

(注)・「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

【令和6年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和6年度報告書の記載内容を転記し文末に「(6) (7)」と記載してください。

【令和7年度から新たに調査対象となった学科等又は令和6年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(7)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<リハビリテーション学部 リハビリテーション学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 施設・設備 専任教員研究室14室	当初計画では6人用共同研究室1 (59.73㎡) 及び8人用の共同研究室2 (81.72㎡) を設置する計画であったが、共同研究室を3部屋 (40.86㎡を2部屋、39.82㎡を1部屋) と、面談スペース (19.91㎡) に変更した。共同研究室は4名で使用し、研究室は15室でなっている。
② 施設・設備 a図書16,707冊 (うち外国書849冊) b学術雑誌48冊 (うち外国書13冊) c電子ジャーナル13冊 (うち外国書13冊)	学術雑誌、電子ジャーナルは購読していた書籍が休刊・廃刊となったため42冊 (うち外国書13冊) となった、図書の総冊数は寄附、追加購入により17,854冊となった。
③学則 第39条 学位の授与 学士 (リハビリテーション学)	③大学設置申請の際に、学位の名称を誤って記載した学則を提出したことが判明し、学則の変更手続きを行った。 学士 (理学療法学または作業療法学)

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの (未実施を含む。) 及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

① 実施体制 a 委員会の設置状況 <p> 本学の教育運営について、3つの委員会 (教育運営委員会、学生生活委員会、キャリア開発委員会) を柱に据え、IR推進・戦略委員会と緊密な連携を図りながら教育運営を行うこととしている。令和6年度は教育運営委員会の下部組織として、臨床実習小委員会とFD&SD小委員会を設置し、教員の資質の維持向上に向けた取組を推進した。令和7年度よりFD&SD委員会を独立した委員会として組織し、新たな規程に基づき、より一層、教員の資質向上を目指した委員会活動に取り組む。 </p> b 委員会の開催状況 (教員の参加状況含む) <p> 令和6年度はFD&SD小委員会委員を教員2名と教育研究推進課職員1名の3名で構成し、令和6年度は全委員が出席し委員会を計13回開催した。委員長である理学療法学専攻教授を中心にFD&SD研修会の開催内容や公開授業の実施方法等を検討し、教育運営委員会と連携しながら、教育活動の充実に向けて取組を推進した。 </p>
--

c 委員会の審議事項等

令和6年度研修会の年間計画について、短期大学における昨年度までの研修会テーマを参考に、主催者側(委員会)と参加者側(教職員)にアンケートを取り、テーマを検討した。

教職員が本学の教育理念やポリシーを理解し、教育や学生支援に必要な能力を高めるためにFDマップ・SDマップの作成の検討を行い、作成に向けて取り組んでいる。

② 実施状況

a 実施内容

1. 開学時説明

令和6年4月1日に全教職員を対象に大学運営に必要な内容について説明し、共有した。

①建学の精神・教育理念 ②愛知医療学院大学の目的 ③理学療法学専攻における養成人材像、3つのポリシーの関連図
④作業療法学専攻における養成人材像、3つのポリシーの関連図 ⑤組織図 ⑥委員会等 ⑦就業規則に基づく各種手続き
⑧教職員の兼業 ⑨教員の学外研究・研修 ⑩教職員の職務に専念する義務免除に関する規程 ⑪授業運営 ⑫教室備付AV機器 ⑬個人情報保護 ⑭出張 ⑮個人研究費執行要領 ⑯令和6年度大学暦 他

2. FD&SD研修会

令和6年度はFD&SD小委員会で検討し、計6回のFD&SD研修会を開催した。

3. 公開授業

令和6年度はFD&SD小委員会で検討し、公開授業を行った。

b 実施方法

1. 教職員向けのハンドブックをもとに、対面で説明した。

2. 開催テーマに合わせて、対面とオンラインを併用し、開催した。

3. 公開授業実施希望者を募集し、公開日を設定の上、FD&SD小委員会で検討した公開授業評価表を参加者が提出し、授業担当教員に提出した。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

1. 全教職員が参加し、欠席者はいない。

2. 令和6年度FD&SD研修会開催状況

第1回 令和6年7月29日(月) 13:00~14:30 参加者30名(うち教員20名)
テーマ Google Formの活用術

第2回 令和6年8月5日(月) 10:00~11:05 参加者34名(うち教員23名)
テーマ 科研費獲得に向けて

第3回 令和6年11月28日(木) 13:15~14:50 参加者26名(うち教員15名)
テーマ 学業不振に陥りがちな学生を未然に防ぐ手立て

第4回 令和7年3月17日(月) 9:30~10:00 参加者27名(うち教員19名)
テーマ コンプライアンス教育~研究費使用を中心に~

第5回 令和7年3月17日(月) 10:00~10:30 参加者28名(うち教員18名)
テーマ 個人情報・データセキュリティ研修

第6回 令和7年3月17日(月) 10:40~11:10 参加者27名(うち教員19名)
テーマ 論文執筆ワンポイントセミナー「英語タイトルの付け方のコツ」

3. 公開授業開催状況

対象科目 運動学総論

公開日

10月30日(水) 1限 参加者5名(うち教員3名)

11月13日(水) 1限 参加者6名(うち教員4名)

11月27日(水) 1限 参加者6名(うち教員4名)

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. シラバスに基づいて、AV機器を用いた授業、機械器具を用いた実習科目等滞りなく進行している。
2. 研修会での内容を各教員が授業改善に活かせるよう日常的に取り組んでいる。
3. 公開授業を担当した教員は、教員、職員からの評価を受けて自身を振り返るとともに、参加した教員は、評価表の記載を通して自身の授業における改善点に気づききっかけとし、各教員が授業改善に向けた取組を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

全科目を対象に、科目毎に全授業終了後に実施する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果を科目担当教員が授業評価レポートとしてまとめ、本学ホームページ上で公表する計画である。授業評価レポートは、「集計データの結果」、「集計データを分析した内容」、「学生の自由記載を検討した結果」、「今後の改善に向けて」についてまとめていく。

(注)・「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

該当なし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

大学設置に向けては、開学準備室が中心となり準備を進め、設置認可申請時の計画に従って令和6年4月の開学の日を迎えた。4月1日に開学式を開催し、理事長は開学宣言を行い、設置の趣旨等の説明を行った。以下に抜粋する。

急激な少子高齢化や医療技術の進展など保険医療福祉を取り巻く環境が大きく変化する中で、これからの保健医療福祉の未来を担う若者が、ともに学び、それぞれの目標の達成を目指す場として、本日ここに、愛知医療学院大学AICHI Medical College of Rehabilitationの開学を宣言いたします。

本学は、社会的知識、基礎的・専門的知識を提供し、障害を有する人々の心と身体を支え、生き生きとした人生の実現を支援できる人材の養成を目指します。

設置の趣旨・目的の達成状況について以下のとおり具体的に報告する。

1. 教育課程の編成等

1年次開講科目のうち3科目、2年次開講科目のうち1科目について履修順序の観点から開講期を変更した。その他の授業科目は全て予定どおりに開講している。

入学前は、学習習慣の継続、学習のモチベーションの維持を目的に、外部業者による入学前教育（主に高校までの復習、国語、数学、生物、化学、物理）をはじめ、学内での入学前教育スクーリング（①アイスブレイク ②学長による講話 ③養成する人材像、ポリシー、大学での学び等本学での学修に向けての講義、④入学前・入学後の学修等についてのグループワーク）を行った。

令和6年4月1日の入学式以降3日間にわたってガイダンスにより、履修指導、教育理念・ポリシー等の説明、学習全般（講義・単位・試験・成績評価他）、学生生活（感染症を含む）全般等について説明した。また、授業科目「スタートアップセミナー」では、チームビルディングプログラムを行い、組織づくり、仲間づくりを目指した。令和6年度開学当初の課題は、既に出席日数が厳しくなっている学生が僅かながらいることや授業態度に課題がある学生がいることであった。そのため、学年担任による面談、保護者への連絡等の対応を早期に行った。

医科大学との連携を特色のひとつとして掲げており、早期体験学習を6月に計画した。また、1年次に実施する臨床実習（I）について、理学療法専攻では2月、作業療法専攻では9月の実施を計画し、臨床実習先との調整等、適切に進めた。令和6年度においては計画通り実施し、これらの取組が学生の学習への動機付けとなった。

2. 教員組織の編成と資質向上に向けた取組

本学の教育理念、養成する人材像、3つのポリシーの具現化に向け計画した教員組織により、計画通り教育研究の遂行の他、大学運営にも携わっている。教育研究の遂行に必要な各種委員会のいずれかに全員を配置し、活動している。今後、安定的な大学運営を目指していく。

さらに、配置した教授全員が他大学で教授としての経歴を持っており、それらの経験や知見の提供を通して、教員の質的向上と研究力を高める。

教員と職員が連携して大学運営に取り組む体制を強化していく。

3. 施設・設備等の整備

研究室の仕様を変更したことを除いて、校舎等施設の整備計画に従って、計画通り遂行した。現在は、愛知医療学院短期大学と共用しているが、本学と短期大学双方の教育研究に支障はない。新規に整備する機械器具についても計画通り購入・配置した。図書館資料も計画通り購入し充実に努めている。電子書籍や文献検索ツールの整備の含め、学習環境の充実に努めている。

4. 管理運営・事務組織

教授会規程に基づき、適切に運営している。議事の内容は議事録にまとめ、全教職員が共有している。教授会の他、拡大教授会を開催している。全教員と事務局管理職をメンバーとし情報共有や意見交換を行い、教育研究の遂行に反映させている。

委員会活動は、各委員長のもと各種活動がスタートした。

事務組織は、事務長の総括のもと、キャリア支援課は、学生生活に関する事務全般行っている。教育研究推進課は、教務事務全般及び研究支援等を行っている。IR・情報課は、IRに関する他、情報管理・施設設備管理・営繕も担当している。教職員の福利厚生労務管理は、法人本部が担い、事務分掌に従って、適切に運営している。

今後も計画・目的を達成できるよう適切に運営し、PDCAサイクルを適切に機能させ、内部質保証の構築を目指していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表予定時期

- ・令和7年6月30日公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開予定（令和7年6月30日を予定）

③ 認証評価を受ける計画

- ・学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和7年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

愛知医療学院大学・短期大学

FD&SD委員会規程

(設置)

第1条 愛知医療学院大学及び愛知医療学院短期大学（以下「本学」という）は、大学設置基準第11条の規程に基づき、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教員及び事務職員等に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修の機会を設けることその他必要な取組を行なうため、FD&SD (Faculty Development & Staff Development) 委員会（以下「委員会」という）を置く。

(審議事項)

第2条 委員会は次の各号に掲げる事項等を審議する。

- (1) FD 活動企画に関する事項
- (2) SD 活動企画に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 理学療法学専攻から1名以上
 - (2) 作業療法学専攻から1名以上
 - (3) 教育研究推進課から1名以上
 - (4) IR・情報課から1名以上
 - (5) その他委員長が必要と認める者
- 2 委員会に委員長を置き、教授会に所属する委員の中から選出する。
- 3 委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

(会議及び運営)

- 第4条 委員会の会議（以下「会議」という）は、委員長が招集し、その議長となる。
- 2 議事は出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 3 議長は必要があると認めるときは、委員以外の教職員の会議への出席を求め、意見を聴くことができる。
- 4 委員会は、会議の結果を教授会に議案として提出する。

(作業部会)

第5条 委員会の業務を円滑に行うために、委員会に作業部会を置くことができる。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

2 この規程の改廃は教授会の意見を聞いて学長が決定する。

附則

この規程は、平成20年6月1日から施行する。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附則

この規定は、令和元年5月1日から施行する。

附則

この規定は、令和7年4月1日から施行する。